

菊池渓谷に生息する昆虫類

菊池渓谷は、多様な植物と豊富な水源に恵まれているため、さまざまな昆虫が生息する環境となっている。渓谷には 1000 種を超える昆虫が生息しているといわれるが、その中でも比較的容易に観察できるのは次のようなものである。

スギタニルリシジミ (*Celastrina sugitanii*) は春、渓谷の桜が開花するころにさなぎを脱いで現れる。翅の表は紺色、裏は白っぽい灰色に小さな黒い点々がある。寿命が 2 ヶ月ほどしかなく、3 月から 5 月にかけて、川辺の水たまりでよく見かける。

スギタニルリシジミの時間が終わり、ウツギ (*Deutzia crenata*) の白い花が咲くと、**トラフシジミ** (*Rapala arata*) などのチョウが集まる。翅の表は濃い青色、裏は白と茶の縞模様の中に橙と黒の虎斑がある。他には濃い茶色の翅に白い帯がある**イチモンジチョウ** (*Limenitis camilla*)、橙と黒の**サカハチチョウ** (*Araschnia burejana*) などだ。

4 月から 7 月頃には、菊池川の急流に数種類のトンボが飛来し、小さな水生昆虫をついばんでいる姿が見られる。体長 5cm ほどの**カワトンボ** (*Mnais pruinosa*) は、エメラルドグリーンの体に鮮やかなオレンジ色からわずかに見える程度の灰色までの翅を持ち、**ニホンカワトンボ** (*Mnais costalis*) はメタリックブルーの体にやや暗めの橙色の翅を持つ。

6 月は**ヒメボタル** (*Luciola parvula*) の季節。昼間はほとんど見るできないが、日が沈んでから深夜まで鮮やかな黄色い光を放つ小さな甲虫である。

夏の終わり頃、水たまりや小さな川辺の淵に目を凝らすと、**ミヤマカラスアゲハ** (*Papilio maackii*) という翅を広げると 12cm ほどの大きな蝶に出会えるかもしれない。翅の表側は黒く、青や緑の鱗粉で覆われている。**カラスアゲハ** (*Papilio dehaanii*) は色がミヤマカラスアゲハに似ているがやや小さく、前翅と後翅の間の隙間がミヤマカラスアゲハほど顕著でない。